



### JR加古川線の駅前でマルシェ

JR加古川線の利用促進を目的に開かれた「へそマルシェ」に約800人が来場。日本へそ公園駅前の広場で、多可町を拠点に活動する和太鼓衆・響が演奏を披露したほか、飲食やワークショップなどのブースが並び、参加者は食べ歩きを楽しんだり謎解きゲームに挑戦したりしました。

催しは沿線にある西脇市と丹波市の地域住民でつくる協議会などの主催で、駅周辺の活性化に取り組む「リレーマルシェ」の一環。〔8月9日〕



### 万博で播州織企業が魅力PR

西脇市と多可町の播州織企業7社が、大阪・関西万博の会場で開かれた近畿経済産業局主催の催しに出展。製品を展示したりサンプルを配布したりして播州織の魅力をPRしました。

また、5月に播州織のファッションショーを披露した西脇高校生が再び万博のステージに。生活情報科の生徒36人が播州織の衣装に身を包み、播州織独自の織り技術の繊細さや優しい風合いを表現しました。〔8月17日〕



### コンサート会場で避難訓練—不審物発見を想定

市制20周年を記念し、西脇警察署と実行委員会が、「避難訓練コンサート」を開催。コンサート会場で不審物が発見されたという想定で観客が避難するもので、約400人が兵庫県警察音楽隊による演奏を楽しんだあと、避難訓練に参加しました。

コンサートでは、音楽隊が大阪・関西万博のテーマ曲やドラマの主題歌などを演奏。「365歩のマーチ」では、観客と詐欺防止の替え歌と一緒に歌い、防犯意識を高めました。

終演後に避難訓練がスタート。西脇警察署や西脇消防署、施設管理者が連携して、避難経路の設定や避難誘導、立ち入り規制、負傷者の搬送作業に当たり、観客は指示に従って会場の外へスムーズに避難しました。

また、緊急車両の展示もあり、記念写真を撮る親子連れの姿がありました。〔8月2日／市民交流施設〕



### こどもプラザ夏まつり

「こどもプラザ夏まつり」で、約150人の子どもたちが魚釣りや的当て、工作などに挑戦。スイカ型のスタンプカードを持って、多彩な遊びが用意された各コーナーを回り、楽しい時間を過ごしました。〔8月10日／みらいえ〕



### 物資提供体制を強化

スギホールディングス株式会社（愛知県）と災害時の物資提供に関する協定を締結。市が被災したときに市内に2店舗を持つ同社から、日用品や一般用医薬品などを円滑な供給を受けることができました。〔8月13日／市役所〕



### 戦争の悲惨さ伝える

終戦から80年に合わせ、郷土資料館で戦争に関する資料約100点を展示しています。11月3日まで。また、8月5日～15日はみらいえで「平和展」を開催。原子爆弾で被害を受けた長崎市の写真を展示し、戦争の悲惨さを伝えました。



### 金融と福祉の連携強化に向けて

内閣府が進めるSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の一つで、金融包摂モデル事業に取り組む慶應義塾大学の駒村康平教授と尾川宏豪特任講師が、金融と福祉の連携をテーマに講演。市内の金融機関と福祉の関係者が国の高齢者施策や動向について話を聞き、相互連携の強化に向けて理解を深めました。〔8月6日／市役所〕



### 地域人材の育成に小中高が連携

情報活用能力の向上をはじめとした地域人材の育成に向けて、市と教育委員会は西脇工業高校、西脇高校と小中高連携の推進に関する覚書を締結。小学校、中学校、高校の校種を超えて連携を強化し、連続性のある学びの深化を目指します。小中高が連携して教育DXを進めることは、全国的に珍しい取り組みです。〔8月19日／市役所〕